

## 胴枯病（トドマツ）

細い枝では枝枯れ，太い枝や幹では褐色～赤褐色を呈する陥没－胴枯－がみられる。病患部が幹や枝を一周するとその上部は枯死する。

病患部の表面は小突起（菌体）が形成され，鮫肌状になる。湿気を帯びるとこの突起から淡褐色～褐色の胞子の塊がニユルニユルと出てくる。

5～8月に発生する。下刈り作業，雪害，凍害などによる傷が誘因となる。

北海道立林業試験場・緑化樹センター



トドマツ胴枯病